

1993年に花まる学習会がスタートし、96年に結婚。

99年に長男が誕生した。

幼稚園の卒園生向けに問題をつくり、教える日々。ある時、埼玉県富士見市の幼稚園の園長から、「いこを紹介しました。僕を見て食べいばぐれないと思つたのでしょね。付き合つて1年で結婚。当時動いていた妻は僕より稼ぎが良かったのですが、僕が稼がず、と妻には仕事を辞めてもらいました。

人間発見

長男が生まれました。同じ時期に生まれた子にきて長男にできないことがあると気づき、半年後脳性まひだと分かりました。知的にも肢体にも障害があります。0歳からお友達、親同士でつながり、療育施設の小高に通いました。やれることは何でも、音楽、絵画、馬、イルカセラピーをし、21歳の今は自宅から施設に通っています。偏差値教育の中に身を置いてきましたが、長男は偏差値をつ

モテる大人に育てたい

花まる学習会代表 ^{たか} ^{はま} ^{まさのぶ}
高浜 正伸さん

けられない。この子が生きていくことに意味はあるのか、と悩みました。でも、遊んでばかりいた自分が息子が生まれてからは必死に頑張っている。障害を抱える人には、周囲の人を頑張らせる「パートナー力」があります。この子たちの力は偉大です。グループのNPO法人の療育支援部門で、心理の専門家が発達に偏りのある子供の学習を支援しています。今夏の花まるの野外体験はコロナ禍で中止。一方、無人島の冒険島化計画が進む。4、5年前から島専門の不動産会社に当たり、2月にいい島が見つかりました。現地に行っ

「無人島計画」進行中 発達に偏りの子支援

達など様々な活動ができます。野外体験に毎年参加していた卒業生から「開拓団の資格がありますよ」と手紙が来ました。親は親で盛り上がるでしょうから、上陸して手伝ったら親の名前も刻むことにするつもりです。すると、その子がおじいちゃんおばあちゃんになった時「これは私のお父さんお母さんなんだよ」と自分の孫に伝えられる。次の世代、さらに100年先を見据え、世界に冠たる子供冒険島にしようと思います。



長男のイルカセラピーを家族で楽しんでいる

て「これだ」と即決し、購入しました。東京ドーム2個分の広さの瀬戸内の離島。浜辺から5分先はいぼらの道。虫や鳥、小動物もいます。夜は真っ暗。水もきれい、波の音も素晴らしい。若に腰掛けパソコンを見ていたら、大きなトカゲが降ってきました。発見の連続です。トイレや非常時の施設を整えればキャンプや食料調

必要とされるということだと考えている。幸せとは何か。哲学時代の答えですが、他人にありがたうと言われ、役立つことだと思つてです。自分の考えの押しつけではなく、来てほしい、教えてほしい、一緒に仕事がしたい、と必要とされること。それには自分磨きがありません。日々成長し、学び続け、相手のことを考える。難しいですよ。子供たちには柔軟な思考で自由自在に生きる力を身に付け、結果として、こんな多くの人に求められている、と実感できる生き方をしてほしいです。(生活情報部次長 畑中麻里が担当しました)